様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

保健医療学部看護学科

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	科学的思考の基盤	安全学	将来医療職に従事する学生が安全学に関する基本的素養を身に付けることは必須のことである。本授業は安全学で重要とされる内容を修得させることを目標とする。 安全の基本概念、リスク表現と安全目標、ハザードの同定、確率論的安全評価、事故分析、ヒューマンファクター、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、安全規制、安全システム、安全文化について教授する。	
一般教育科目	科学的思考の基盤	教育学	学校は生涯教育の基礎で、教育という営みは学校で教えられるものだけではなく、社会で生きていく上で出会う様々な社会的現象に対して、豊かなものの見方、考え方を提供してくれるものである。 子どもと学校をめぐる今日の状況について、学力や学級崩壊などの実践をもとに学び、そうした状況を改善する方法について、今進められている教育改革の動向について捉える。	
一般教育科目	科学的思考の基盤	統計学	医療分野では日常多くのデータに出会う。それらのデータを解析して意味のある内容を導き出すことが必要になることがある。その際統計学が役立つ。本授業は記述統計学と推測統計学の理解とそれらの応用ができるまでを目標とする。 統計学とは何か、データの整理、平均値、分散と標準偏差、母集団と標本、正規分布、ｔ分布、カイ二乗分布、Ｆ分布、母数の推定、仮説検定、分散分析、相関と回帰、保健統計について教授する。	
一般教育科目	科学的思考の基盤	情報科学	現在、看護やリハビリテーションの分野に於いてもいたるところでコンピュータが使われ、それに関連する知識が求められている。本授業は情報の基礎知識と情報処理技術を修得させることを目標とする。 情報とは何か、情報の表現、情報科学の歴史、ハードウェアとソフトウェア、ネットワーク、ユビキタス、数値シミュレーション、コンピュータグラフィクス、医療分野の電子情報技術、表計算ソフトExcelを使ったデータの統計処理方法について教授する。	
一般教育科目	科学的思考の基盤	情報処理	高度情報処理社会において，個々人には，日常生活の営みにおいてインターネット等情報処理基盤の活用に係る一定の技術（情報リテラシー）が求められると共に，社会において果たすべき役割に対して情報処理基盤の利用が許可されている。情報処理基盤を，不正を排除し適正に運用するためには，上記一定の技術に加えて，基盤を共有する社会のガバナンスやコンプライアンスに対する理解と，適正な姿勢が必要である。個々人の能力を大幅に拡大し，時に無限の可能性を与えるように見える情報処理基盤が諸刃の剣であることの理解の上に，これに対する技術と姿勢をバランス良く身につけることを目的とする。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

保健医療学部看護学科

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	科学的思考の基盤	物理学	将来医療職に従事する学生に自然科学の基礎をなす物理学を修得させることは必須のことである。本授業は医療分野に於いて治療や訓練に使われている物理法則の理解と医療機器の原理の理解を目標とする。 物理学とは何か、単位系、力とつりあい、物体の運動、仕事、エネルギー、圧力と浮力、振動と波動、電磁波、熱、電気、人体と電気、磁気、放射線、原子力エネルギーについて教授する。	
一般教育科目	科学的思考の基盤	生物学	医療に携わる上でヒトの身体のしくみを理解することは必須である。そのために、生物学の基礎を学び、ヒトという生物を広い視野で捉えることはとても重要である。本授業は、生物とは何か、ヒトはどういう生物か、そしてヒトと他の生物にはどんなかかわりがあるのかを理解することを目標とする。 生物の定義、細胞の構造、生体を構成する物質、代謝、同化・異化、遺伝子の構造と発現、細胞分裂、生殖、遺伝、恒常性の維持、免疫、生態系、生物の多様性と環境について修学する。	
一般教育科目	科学的思考の基盤	人間工学	人間工学は、人に優しい技術、使いやすい機器、生活しやすい環境を創るために生まれてきた学問であり、いろいろな分野で広く応用されている。現代はコンピュータ技術、情報科学、システム工学などの進歩によって人間と機械との境界がなくなり、人間と機械・機器・システムの関係が変化してきている。 人間と機械の関わり、人間の運動特性と心理・感性、人間工学の応用とヒューマンインターフェース、医療技術と人間工学などについて、具体例に基づいて学ぶ。	
一般教育科目	科学的思考の基盤	文化人類学	21世紀を迎えた今、「国際化」は完全に時代の潮流である。国際化とはすなわち異文化との接触機会の増大を意味する。文化人類学は人間の諸文化を比較検討する学問である。社会とは何か、文化とは何かを考え、文化の諸局面に関する学習を通じて、人間文化の多様性を知るとともに、異文化を理解するための基本的な視座を身に付ける。 文化人類学における諸理論に触れながら、基礎概念をさまざまな角度から検討することを第一の目標とする。	
一般教育科目	科学的思考の基盤	哲学	テキストを叩き台として、現代における哲学の基本的な問題の幾つかを紹介し、これらに関する様々な見解を批判的に吟味して行く。そしてこれらの問題を自らの問題として捉え、既成の知識や権威を鵜呑みにすることなく、自分自身で考えて行くという哲学の基本的な態度を身につける。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

保健医療学部看護学科

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	科学的思考の基盤	人間関係論	人間関係における基礎的な知識、基礎的な技術について教授する。内容としては、人間関係における社会的相互作用やコミュニケーションにおける基礎的な知識や技術について教授する。あわせて、自己を理解することの必要性について教授する。さらに、医療職としての人間関係について、自己を理解することやクライエントを理解することを通し、クライエントとの関係づくりの基礎を教授する。	
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	心理学	現代の心理学は、人間についての科学的で総合的な理解を目標に、心の働きと行動について研究する学問である。治療やケアの対象となる人間の心理や行動を追及し、多面的に理解するための心理学の基礎(知覚や感覚、学習、記憶、情動や動機付け、思考や言語、発達、性格)を学ぶ。 また心理学を学習することで、自己理解や自己統制を助け人間形成にも役立てる。心理学の基礎知識、方法論を学習し、自他の理解について、心理学的なアプローチがあることを学習する。	
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	家族心理学	家族心理学の基礎的な概念や理論をふまえながら、「家族」の時代的な変化をおい、現代社会における家族の諸相について心理学的立場より教授する。 医療の場においては、医療機関を利用する人々への関わりだけでなく、その家族への関わりは切り離すことができない。このため、社会などが家族に及ぼす影響を家族心理学の立場より、現代家族が直面している多くの問題(例えば親子関係、夫婦間の問題、高齢者の介護問題、子どもの養育に関する問題、教育や学校或いは社会との関係等）についてとらえ、現代社会における「家族」について教授する。	
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	生命倫理	遺伝子の化学的本体と機能が明らかになり、個体発生･個体の行動･社会形成などの高次の現象の基本設計も遺伝子情報にあることが浮き彫りにされた。また、生命科学の発達は新しい生命工学技術を生み、それを駆使して医療分野も著しい変革を遂げつつある。 先端医療技術の発達に伴って、生と死をめぐる考え方や医療従事者と患者の関係の有り方に大きな変動が起きており、生命倫理の諸問題が様々な議論を呼んでいる。 生命倫理学という新しい学問が成立してきた歴史的背景を追い、先端生命技術の現在を展望し、具体的な問題に即しつつ生命倫理について考える。	
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	倫理学	現代社会が直面する倫理問題を適切に捉え、これに対処するためには、自らの倫理生活を反省するとともに、社会の在りようを倫理的な視点から、沈着に考察・批判する態度が求められる。そのために、講義では先ず、実践的な倫理問題に開かれた目を養うよう、今日、応用倫理として様々な社会生活の領域で取りざたされている具体的なテーマを題材として取り上げる。同時に、医療の倫理的問題への重要なアプローチのひとつであるケアの倫理について、その意義や特色、枠組みなどを学ぶ。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

保健医療学部看護学科

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	社会福祉学	社会福祉事業とは何かにはじまり、社会福祉の法制、サービス体系、社会福祉の経営、財政、民間社会福祉活動あるいは高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉、生活保護制度、福祉専門職と関連職種との連携など社会福祉の全体像を学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (全8回) 社会福祉の概論を中心に、社会福祉の歴史、社会福祉の方法論（個別的援助、集団的援助）を包括的に教授する。また高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉、生活保護制度について教授する。 (全4回) 地域福祉を中心に、在宅における地域包括ケアシステム、地域包括支援センターのあり方を教授し、地域リハビリテーションの根幹を学ぶ。 (全3回) 精神保健福祉を中心に、精神科領域の社会福祉制度について学ぶ。ノーマライゼーションの考え方の浸透により、精神疾患患者の在宅における生活のあり方、グループホームのあり方について教授する。	オムニバス方式
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	ボランティア論	平成7年1月17日早朝、阪神・淡路大震災が生じ、それに関して目覚しいボランティアの活躍があり、この年が日本における「ボランティア元年」である。 その後、全世界で地震、津波、洪水などが頻発し、困難に陥った人に真剣に手を差し伸べ、他人任せ、行政任せにするのではなく、自分たちの力でよりよい社会を作る仕組みの構築が求められている。 ボランティアとボランティア活動についての理解と認識を深め、実際にボランティア活動に参加することにより、地域と世界の共生について、より広い視野に立った考慮力を身につける。	講義10時間 演習20時間
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	英語Ⅰ	高校で学んだ基礎的知識を補強しつつ、基礎レベルの英文読解力・聴解力・英文作成能力・英会話力の充実を図ることを目的とする。日常的な文化・社会・国際問題などや学生が関心を寄せることができる身近な話題に関する英文のエッセイや記事を題材にして、語彙力の増加と基本的な構文の再確認及び英文の反復練習に重点をおきながら、上記の四つの英語コミュニケーション能力をバランスよく身につけられる学習を行う。	
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	英語Ⅱ	看護とリハビリテーションの領域における医療英語の読解・聴解・英文作成・英会話の四分野の基本的英語コミュニケーション能力の育成を目的とする。平易な英文で書かれた医療関係の情報の収集方法の習得と、英文記事などを読解するために、かつ簡単な英文を作成するために基礎的な医療英語の語彙・用語と文章表現を学習する。また臨床現場で簡単な英会話もできるように、医療英会話の基本的表現の聴解と運用の学習を行う。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

保健医療学部看護学科

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	英語Ⅲ	「英語Ⅰ」を基盤として、英文読解力・聴解力・英文作成能力・英会話能力をさらに発展させる学習を行い、日本人及び医療人として広い視野を持ち、国際社会の多様性に応じられる英語運用能力の収得を図る。福祉・文化・社会・国際分野における様々な時事情報に関する「英語Ⅰ」より難度の高い英文の読解・記述・聴解を通して、語彙の増加を促進しつつ、英語で思考する習慣を身につけ意思疎通もできるようになる学習を行う。	
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	英語Ⅳ	「英語Ⅱ」の学習を基にして、医療・看護領域での総合的でより高度な英文読解力・聴解力・英文作成能力・英語によるプリゼンテーション能力の獲得を目指す。国際的な学術雑誌やデータベースに掲載された難度の高い英語で書かれた医療・看護関係の論文・報告書・エッセイなどの読解を重点的に行う。また、論文の英文抄録記述のために英文作成を実践する。さらに、これらの学習を通して英語でのプリゼンテーション能力も育成する。	
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	英会話	「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」と同時進行的に、日常生活と医療現場における英語によるコミュニケーション運用能力の充実と発展を図る。日常英会話と臨床英会話の基本的および発展的表現を反復練習して身につけ、それらをロールプレイイングやドラマパーフォーミングなどの色々な英語運用方法を通して、日常や国際的な場で遭遇する外国人の患者や医療従事者との意思疎通が臆せずできる英語コミュニケーション能力を修得する。	
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	フレッシャーズセミナーⅠ	新入生を対象とした必修科目であり、大学での４年間の学生生活をより実り豊かなものとするために必要とされるさまざまな知識やスキルを身につけることを目的としている。 内容としては、基礎学力向上する目的で、人体の構造に関しての課題を与え、課題を遂行する事で知識の定着を図り、今後の勉学のモチベーションの向上を図る。そして、授業を行う中での医学的レポートの書き方、図書の活用方法を教授し、スムーズな学業への移行を支援する。 また、患者接遇マナー、キャンパスハラスメントに対する対処法、学生を取り巻く課題としての消費者問題への対処法やアルコール依存、薬物依存などを防ぐための対処法、そして通学における車社会への対応、交通安全等に関する講義等を行い、４年間の学生生活への支援を行う。	講義20時間 演習10時間

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

保健医療学部看護学科

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	フレッシャーズセミナーⅡ	新入生を対象とした必修科目であり、大学での４年間の学生生活をより実り豊かなものとするために必要とされるさまざまな知識やスキルを身につけることを目的としている。 また、医療に関わる専門職としては、医療チームと協働、顔の見える連携が必要であり、本学部の強みを活かし、リハビリテーション学科と看護学科の学生合同で授業を進めお互いの職種を知ることを目的とする。お互いの仕事内容の確認と医療現場におけるコミュニケーションを育てるための連携を目的とした授業を進める。 (オムニバス方式／全15回) (全2回) 理学療法士の仕事内容について説明し、関連医療職との連携をどのように行っているか教授する。 (全2回) 作業療法士の仕事内容について説明し、関連医療職との連携をどのように行っているか教授する。 (全2回) 言語聴覚士の仕事内容について説明し、関連医療職との連携をどのように行っているか教授する。 (全2回) 看護師の仕事内容について説明し、関連医療職との連携をどのように行っているか教授する。 (全7回) 医療現場において連携を求められる場面について考え、医療現場における連携の実際、必要性について理解する。また、変化する医療現場に応じて新たな連携のあり方を模索する意識の獲得を図る。医療現場おける組織全体との調和・連携、医療関連職種との連携、病院と地域との連携について教授する。	オムニバス方式
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	日本国憲法	日本国憲法に関する基本的な知識を習得し理解することを目的とする。戦後日本の平和と民主主義の理念のもとに平和憲法である日本国憲法が制定された歴史を踏まえ、私たちの生活と権利を守る日本国憲法の基本的人権の精神を学び、日本国憲法を実際の生活に活かすことを目指す。同時に憲法は国家の動向を監視する役割もあり、国家のあり方を監視し私たちの生活と権利を守る存在としての日本国憲法の歴史的･現代的意義を学ぶ。	
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	体育	スポーツの意義を理解し、健康の保持増進とともに、体力の向上、人間関係の形成、さらにはスポーツの普及や振興について、実際にスポーツの体験を通して学ぶ。また実際に各種スポーツを体験することにより、スポーツの楽しさを理解する。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

保健医療学部看護学科

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	スポーツ医学Ⅰ	スポーツ指導者がスポーツ医学に関する知識を持つことの重要性について理解を深め、スポーツ活動と健康（QOL）との関わりについて学習する。また世代、年代別の健康とスポーツ活動・運動についての考え方、スポーツ活動中に多いケガや病気について、その発生の原因や症状について理解し、救急処置の判断、処置方法を身につける。 (オムニバス方式／全15回) (全4回) スポーツで起こりうる内科障害や発育期の性差、体力の身体的・心理的特徴について、また頭部外傷、熱中症、過換気状態など様々な状況での救急処置について学ぶ (全4回) スポーツ医学の基礎知識、スポーツ活動が身体に及ぼす影響について学ぶ。また運動不足に起因する様々な疾患とその予防、スポーツで起こりやすい怪我について学ぶ。 (全7回) 運動器の仕組みと働き、呼吸循環器系の働きとエネルギー供給について学ぶ。またアスリートの身体障害と対策、特殊環境下での対応について学ぶ。	オムニバス方式
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	スポーツ医学Ⅱ	スポーツ活動に起きやすい一般的な外傷・障害を各部位ごとに理解するとともに、その正しい予防法や対処法の理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (全8回) 運動器の構造、機能と機能解剖に関する基礎的知識を理解し、スポーツ活動中に起きやすい一般的な内科的障害とそれに対する具体的な予防法、対処法の理解を深める。 呼吸循環器系は筋収縮のために必要なエネルギー補給路として、また異化産物の排出路としての働きを担っていることを理解させ、さまざまな代謝指数を用いて運動強度と酸素に関する理解を深める。 (全7回) スポーツ種目（運動時間、運動強度）によって、筋にエネルギーを供給する仕組みの違いがあることや、心拍数、乳酸値のトレーニングへの応用の仕方を理解する。 なぜアンチ・ドーピングに取り組まなければならないのかを理解するとともに、知識を理解し、競技者に対して正しく伝えることができるようになる。	オムニバス方式
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	スポーツ社会経営学	現代社会における人々の生活とスポーツはあらゆる側面で深く関係している。そしてその関与の仕方は多様である。「スポーツとは何か」についての定義づけを明確にし、スポーツ発展の経緯と現代スポーツの考え方（社会環境の変化とスポーツを取り巻く環境）について理解を深める。現代スポーツの考え方を明らかにし、スポーツを文化として捉えることの重要性について理解を深め、スポーツ技術・戦術以外のスポーツの文化的内容であるスポーツ観及びスポーツ規範の重要性について学習する。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

保健医療学部看護学科

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	コーチング論	近年コーチングという概念は大きく変化しつつある。コーチングの手法はコーチが持つ人間観によってもパフォーマンスが左右される。人間が持つ本来の力をいかに発揮させるがコーチングの姿である。 講義では、理論とトレンドな情報、映像を交え、時には従来の精神主義、根性主義的なコーチングと現在のコーチングとの比較を試みながら、あるべきコーチングのあり方、効果的なコーチング手法を講義し時にはロールプレイを行い実践者としての理解を深めていきたい。 毎回レポートの提出を行い、コーチング理解の進捗状況を見極めながら講義を進める。	
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	競技者育成システム論	競技者育成には、意図した目標が達成されたか、練習が計画的に進められ、どのような成果があげられたかなどの評価活動が不可欠である。指導者の指導と競技者のトレーニングとが、もっとも効果的に行われるために必要なスポーツ指導計画の立案方法を理解する。 競技者育成システムという観点から、将来性豊かな競技者をいち早く「見つけ・育てて・世界で活躍させる」ための長期的展望に立脚した指導計画の重要性を認識させる。また海外の競技者育成システムを紹介し、日本の文化、民族性、社会制度に見合った競技者育成システムに関して問題提起する。 そしてトップレベルのチームは、どのようなチームの構造条件、環境条件、課題条件を備えているかを紹介し、良い集団としてチームをマネジメントするための、望ましいコミュニケーション構造や役割構造、集団の成員性や凝集性、リーダーの役割などを学習させる。 インターネットやＥメール、携帯電話などの急速な普及発展とＡＶ機器の進歩により、スポーツ指導の方法や国内外の競技力向上における情報の収集方法が変わりつつあり、クラブ（チーム）内および指導者－競技者間の連携ツールとしての活用方法について理解する。映像（ビデオ等）を利用した技術指導（動きの分析～具体的な対策）、ゲーム分析等について理解する。	
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	トレーニング科学Ⅰ	講義はまずトレーニングに関わる科学の正しい理解のための原理原則を学ぶ。 トレーニングの方法は多様である。競技スポーツ、発達発育期、中高年など年齢別、目的別、性別、体力水準、経験別に検討されなければならない。したがって多様化したトレーニング理論はその人の身体能力や運動能力を始め、心理的能力、社会的など多面的な情報を基にプログラミングされる。 また、それぞれのトレーニング方法を指導する際に、目的や強化される部位について的確に示すことができ、正確な方法を指導できる力を身につけることである。立案されたトレーニング計画を実際に実施していくには、トレーニング環境、トレーニング負荷の増減、トレーニングに伴う疲労の問題など様々な問題があることを理解し、それらに対処する能力を養う。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

保健医療学部看護学科

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	スポーツ栄養学Ⅰ	健康保護、健康増進、さらにはスポーツ活動・運動を支える栄養摂取についての基本的な知識を得るとともに、日々の食事を規則正しく摂取することが健康的なスポーツライフをマネジメントするための第一歩であることを学習する。また、水分補給の重要性についても学習する。 競技者に対する栄養指導の大切さを理解させるとともに、スポーツにおける栄養の役割と関係する栄養素との関連についての知識を高める。競技者の望ましい食事及びトレーニングの目的にあった食事の取り方について理解を深める。	
一般教育科目	人間と生活、社会の理解	アスレティックトレーナーの役割	アスレティックトレーナーの起源や歴史的背景に基づき、わが国のアスレティックトレーナーの歴史と(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成事業発足の歴史的背景、設立趣旨、位置付けを理解させる。アスレティックトレーナーが担うべき任務とその役割を理解し、アスレティックトレーナーが行う業務を具体的に示し、それらを理解させることをねらいとする。アスレティックトレーナーが活動する上で選手を取り巻くサポートスタッフの構成やその役割を理解する。スポーツにおける組織とそれに関わるアスレティックトレーナーの組織とその運営について理解するとともに、スポーツ組織内での健康管理に関する各種データの収集とその管理、各スタッフ間との連携体制の確立とその組織運営について理解させることをねらいとする。社会の秩序絵を学び、アスレティックトレーナーの社会的な立場とその貢献について理解するとともに、アスレティックトレーナーの倫理規定を示し倫理について理解させることをねらいとする。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	人体の構造と機能	身体構造機能学Ⅰ	疾病の発症機構、および治療、日常生活と身体の関係を理解するためには、生命現象を営む仕組み（構造と機能）の正常な働きを理解することが必要である。人間が複雑な環境の中で生命を維持し、つないでいく身体の巧妙な構造（解剖）と機能（生理）の基礎を教授する。 内容は、からだの構造と機能の概要、細胞の構造と働き、遺伝子の構造と役割、組織の分類と概要、消化器系の構造と機能、排泄系の構造と機能、血液・循環器系の構造と機能について取り扱う。	
専門基礎科目	人体の構造と機能	身体構造機能学Ⅱ	疾病の発症機構、および治療、日常生活と身体の関係を理解するためには、生命現象を営む仕組み（構造と機能）の正常な働きを理解することが必要である。人間が複雑な環境の中で生命を維持し、つないでいく身体の巧妙な構造（解剖）と機能（生理）の基礎を教授する。 内容は、内分泌系、骨格・筋系、神経系、感覚系、免疫系、体温調節系、生殖系の構造と機能について取り扱う。	
専門基礎科目	人体の構造と機能	生化学	人体における細胞のひとつひとつの中では、目に見えない生命現象が営まれている。生命科学の基礎を学ぶことで、人体の構造と機能をより深く理解するとともに、病態治療論の理解につなげられるようにする。 内容は、細胞の全体構造と機能、物質代謝（異化と同化）、エネルギー物質の生成と利用、糖質の種類・構造・性質、脂質の種類・構造・性質、アミノ酸の種類と性質、蛋白質の構造、核酸の構造、酵素、解糖系、クエン酸回路、ＤＮＡ複製及びＲＮＡ合成などである。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	病態学総論	人間の健康状態を科学的にアセスメントし必要な援助を考える上で、疾病に関する知識は不可欠である。これを理解するための科目として病態治療論を位置づける。病態学総論では、病態治療論Ⅰ～Ⅴの基礎となる疾病の概念と病因について教授する。 内容は、疾病の概念と病因、疾病の分類とその成り立ち、先天異常・代謝障害・循環障害の原因・経過・結果、炎症及び免疫異常の原因･経過･結果、腫瘍の原因･経過・結果である。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病治療論Ⅰ（外科）	腹部胸部外科系の疾患の病理及び主要症状の発現機序を教授し，診査・治療の特徴と具体的方法について教授する。主に食道癌、胃癌、結腸および直腸癌、膵･胆管癌、乳癌、肺癌、心臓手術等の周手術期の医療ならびに術前術後の医療管理の方法と、再発を予防するためのセルフケアならびに術後の状態の現状維持と悪化を予防するための生活を可能にするリハビリテーション治療の方法について教授する。 (オムニバス方式全15回) (5回) 主に乳腺、食道、胃十二指腸、肝･脾、胆道、膵臓手術等の周手術期の医療、術前術後の医療管理の方法、再発予防のためのセルフケア、悪化予防のためのリハビリテーション治療等について教授する。 (5回) 主に急性腹症、小腸、大腸、肛門、ヘルニア手術等の周手術期の医療、術前術後の医療管理の方法、再発予防のためのセルフケア、悪化予防のためのリハビリテーション治療について教授する。 (5回) 主に胸部疾患の治療、肺がん、心臓手術等の周手術期の医療、術前術後の医療管理の方法、再発予防のためのセルフケア、悪化予防のためのリハビリテーション治療について教授する。	オムニバス方式
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病治療論Ⅱ（整形･脳神経）	骨・関節・脳神経系の疾患の病理及び主要症状の発現機序を教授し、診査・治療の特徴と具体的方法について教授する。特に主要疾患である骨折・リウマチ・脳梗塞・脊髄損傷等の疾患を持って生活維持するためのセルフケアの方法、悪化を予防して生活を可能にするリハビリテーション治療の方法について教授する。 (オムニバス方式全15回) (8回)　膠原病各種疾患、神経疾患などの病態、および主要症状や診断・治療について教授する。 (7回)運動器を構成する骨・関節・人体ならびに運動器を動かす神経・筋肉・腱の構造について教授し、運動器疾患の主要症状や診断・治療について教授する。さらに、先天性疾患、外傷、変性疾患、感染、腫瘍などの代表的な運動器疾患について教授する。	オムニバス方式
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病治療論Ⅲ（排泄･感覚･歯）	人間の感覚器、排泄、口腔に関する疾患の機序、病態及び治療等について教授する。 (オムニバス方式全15回) (4回) 腎・泌尿器領域における成長発達に伴う変化や特徴、疾患(前立腺肥大･前立腺がん等)の病理及び主要症状の発現機序、診査･治療の特徴や具体的方法について教授する。 (4回) 耳・鼻･咽喉領域における、成長発達に伴う変化や特徴、疾患(中耳炎・副鼻腔炎等)の病理および主要症状の発現機序、診査･治療の特徴や具体的方法について教授する。 (3回) 眼科領域における成長発達に伴う変化や特徴、疾患(白内障･緑内障・網膜剥離等)の病理及び主要症状の発言機序、診査･治療の特徴や具体的方法について教授する。 (4回) 歯科・口腔領域における成長発達に伴う変化や特徴、疾患(う蝕･歯髄炎･歯肉炎等)の病理および主要症状の発現機序、診査・治療の特徴や具体的方法について教授する。	オムニバス方式

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病治療論Ⅳ（呼吸・循環・血液）	呼吸・循環・血液系の疾患の病理及び主要症状の発現機序，診査・治療の特徴と具体的方法について教授する。特に主要な気管支喘息・高血圧症・心不全・心筋梗塞症・白血病・貧血等の慢性疾患をもって生活維持するためのセルフケアの遂行と、悪化予防・現状維持の状態で生活する上でのリハビリテーション治療の方法について教授する。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病治療論Ⅴ（腎臓・内分泌・消化器）	消化・腎・内分泌系の疾患の病理及び主要症状の発現機序を教授し、診査・治療の特徴と具体的方法について教授する。特に主要疾患として、胃潰瘍・肝炎・肝硬変・腎炎・尿毒症・糖尿病等の疾患をもって生活維持するためのセルフケアの遂行と、現状維持の保持・悪化予防するための生活を可能にするためのリハビリテーション治療の方法について教授する。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	老年疾病治療論	老年者は複数の疾患を持ち、加齢現象と疾患が相互に影響しあうため、病態が複雑で症状の表れ方は非典型的であり、個人差が大きいのが特徴である。老年者の加齢に伴う変化とその機序・病態生理を解明し、治療・症状の特徴や対処の方法を教授する。 具体的内容は、老化と免疫、感染症、老年者の臨床検査値、老年者の腎・排尿・性機能、老年の骨折・骨粗鬆症・関節症、悪性腫瘍、感覚器の疾患、皮膚疾患、外科的治療などである。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	母子疾病治療論Ⅰ（小児）	健康障害をもつ小児の健康状態や発達状態に応じて、小児と家族への援助を考えられるように、小児の疾病や障害についてその病態や検査・診断、治療などについて教授する。 具体的内容は小児特有の疾患の病態・検査・治療であり、小児の先天異常、新生児の疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、免疫・アレルギー疾患、ウイルス感染症、細菌感染症、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液疾患、悪性新生物、泌尿器疾患、神経疾患、運動器疾患、皮膚疾患、眼疾病、耳鼻咽喉疾患、精神疾患、外傷、小児の虐待等である。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	母子疾病治療論Ⅱ（周産期・女性疾患）	妊娠や出産を中心とした「周産期」に関わる分野と、女性特有の疾患や女性器腫瘍などを対象とする「女性疾患」の分野について教授する。 (オムニバス方式全8回) （4回） 「周産期」分野での主な内容は、正常な妊娠や分娩経過を教授後、ハイリスクの妊娠や分娩の疾患(妊娠疾患、多胎妊娠、妊娠持続期間の異常、異所性妊娠、分娩異常として産道の異常、胎児の異常による分娩障害等)とその病態生理、診察および治療の方法等を教授する。 （4回） 「女性疾患」分野での主な内容は、女性特有の卵巣・子宮癌などの疾患の症状とその病態生理、診察、検査、治療、処置方法などについて教授する。	オムニバス方式

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	精神疾病治療論	精神医学とは精神の異常ないし病的状態（精神病）に対する医学である。おもに精神疾患、精神障害の分類と検査、診断、それらの成因、病態、治療方法などについて系統的に教授する。また、精神疾患を持つ人々だけでなく、その他の疾患を持つ人の心理的背景や、地域の人々の心の健康を考え、心理的背景を理解できるように促し、精神的、心理的回復援助につなげることができる基礎的知識を教授する。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	リハビリテーション医学治療学	ハビリテーション医学における代表的疾患である脳卒中、脳性麻痺、脊髄損傷、慢性関節リウマチ、呼吸循環器障害に対する評価治療についての理解を深める。特に、それぞれの疾患に共通の合併症については、その発生機序、予防的観点について、症例を通して教授する。また虚弱老人に対する予防的側面を踏まえた転倒予防に関する取り組みについても教授していく。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	病原体の観点からだけ教授するのではなく、微生物の特徴を人体の機能と関連させながら教授し、看護の視点から微生物を捉えられるようにする。 具体的内容は、微生物の性質（細菌、ウイルス、真菌、原虫）、人体と微生物の共生（微生物の生態系、常在微生物叢、人体の非特異的防御反応等）、共生のバランスの崩壊（侵入門戸、感染による人体の反応、主な病原微生物の特徴、感染症の現状、感染症の診断と治療、院内感染、感染症の予防手技）などである。	
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	臨床栄養学	対象者の健康状態を把握し、その健康レベルに合わせて、健康生活の維持・増進・回復への援助について教授する。さらに、その中で必要となる栄養は、個人が抱える健康障害との関連も大きいため、多角的に栄養に関するアセスメントができるための基礎知識、療養生活と栄養、食事指導等について教授する。 (オムニバス方式全8回) (4回) 栄養状態の評価と栄養摂取量、病院食の特徴と種類、摂食・嚥下障害や代表的生活習慣病を含む各種疾患の栄養食事療法の原則と実際、高齢者の特徴と栄養の基本等について教授する。 (4回) 代表的生活習慣病を含む各種疾患の栄養食事療法の原則と実際、妊産婦･小児の特徴と栄養の基本、褥瘡対策やＮＳＴの活動等について教授する。	オムニバス方式
専門基礎科目	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学	医療において薬物療法は重要な治療法である。看護者は患者の状態をアセスメントし指導する上で、また、医療事故を防止するためにも薬物に関する知識が不可欠である。看護する上で必要な薬理の知識をまとめて教授し、各病態治療論や看護学につなげる。 具体的内容は、薬物の作用と体内動態、薬効に影響する因子、薬の有害作用、中枢神経作用薬、ホルモン・オータコイド、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系・皮膚及び眼作用薬、ビタミン、化学療法薬、抗感染症薬、消毒薬などである。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	多職種連携論	施設内医療から在宅医療まで患者と家族が望む生活を支援するためには、多職種が互いの専門性を活かしながらチームとして連携することが重要である。相互の専門性を理解し合い、ニーズに応じた連携を実践するための基礎的能力を養うこと目的とする。 具体的内容は、多職種連携が必要とされる背景と必要性、多職種連携の概念、多職種の専門性、連携の展開方法、連携の実践とその評価、多職種連携の課題と展望等である。	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	チーム医療論	医療に携わる専門スタッフには、職能の発揮だけではなく、相互理解と綿密な連携によるチームアプローチが求められる。そのためには、各専門スタッフの職域を理解し、それぞれに課された役割を理解する必要がある。 内容は、チーム医療の歴史、必要性、実際、各専門職域と役割、医療現場における事例である。	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	医療リスクマネジメント論	医療の質保証・質向上を目指した改善活動である質管理（Quality Management）を基盤として、「リスクの管理」「リスクの把握」「リスクの対応」「対応の評価」という一連のプロセスから、患者・利用者の安全確保の視点での安全管理（Safety Management）を含めた概念について教授する。 具体的には、「リスクマネジメントの動向・考え方」「PDCAサイクルとは」「クオリティマネジメントの基本的な考え方」「ミスを防ぐための個人的・組織的対策」「医療事故の分析方法（SHEL分析等）」等についてである。	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	ヘルスケアシステム論	わが国のヘルスケアの提供体制を体系的に学び、地域の人々がどのような社会システム（医療・福祉・保健など）の中で生活しているのかを理解することを目的とする。 ヘルスケアシステムを構成する基本概念および医療と社会との接点で生じている問題や課題、それらを理解するための原理やモデルについて教授する。	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	看護と法律	看護職が活動するために必要な保健・医療・福祉制度について教授する。また、医療を取り巻く環境、労働環境等、医療や看護領域に関連のある法律について教授する。 具体的内容は、法規の概念、衛生法規、医事法(特に保健師助産師看護師法、医師法、歯科医師法、医療法および薬剤師法等の医療関係資格に関する法律）、薬務法規、保健衛生法規、予防衛生法規、環境衛生法規、社会保険法規、福祉法規、労働および社会基盤に関する法規等である。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	健康増進科学	看護師が医療現場で患者や家族の達成可能な健康レベルの到達を支援するためには、地域社会において提供される公衆衛生サービスの内容とその科学的根拠を十分理解し、最も適したサービスを助言できる必要がある。当該科目では、人間集団の抱える健康問題を解決するための重要な科学的手段である疫学の考え方とライフステージに応じた各種保健施策や環境衛生施策の背景について教授する。 内容は、包括的医療と公衆衛生活動の特徴、疫学の考え方と研究方法、集団の健康指標と保健統計の意義、健康施策の現状と課題（母子保健･学校保健・産業保健・老人保健）、環境施策の現状と課題（食品衛生・空気･水･廃棄物）などである。	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	健康増進科学演習	授業科目「健康増進科学」で教授した人間集団の抱える健康問題を解決するための科学的手段としての疫学の考え方や方法を用い、健康や環境に関する現状や課題を演習形式にて教授する。	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	環境と健康	環境の変化は人々の健康に影響し、社会的な問題となっている。また、人口動態の変化や疾病構造の変化も社会的な問題となっている。人々の健康な生活を支援する者として、これらに関する知識をもち広い視野で医療技術を考えなければならない。ここでは｢環境｣をあらゆる角度から捉え、健康に及ぼす影響と健康を保つための施策を理解し、医療技術に活用できる能力を養う。 内容は、生活環境と健康、教育環境と健康、労働環境と健康、人口動態と健康指標、疾病予防と健康管理、健康と衛生行政等である。	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	生涯発達心理学	近年、生活や教育における様々な人間の発達に関わる問題が多くなってきている。人間の生涯にわたる精神発達を学習する必要性について学び、その後、子供から成人になるまでの変化･発達について学習する。 ピアジェやエリクソンの発達理論をベースに各段階についての代表的な心理学的アプローチと知見を学び、老年期および死と死の受容についても心理学的な理解を深め、支援のあり方について考える。	
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	健康教育論	健康教育論の目的は、健康問題が起こらないようにする（予防）、おこってもすぐ対処できるようにする（早期発見・早期治療）、健康問題を解決する（治療）、完全に解決して社会復帰する（リハビリテーション）、よい方に向かわせるという意味あいを含む。　個人が健康的な生活習慣を確立できるように、社会環境の整備とともに、教育面から支援を行い、行動変容への動機付けや、行動変容に必要な知識・技術の習慣を促すことが必要となる。 具体的内容は、健康教育の定義、セルフケア論、行動科学と健康教育、健康教育の発展過程、ＫＡＰモデル、プリシード・プロシードモデル、健康教育と行動変容、自己効力感と健康教育、健康教育の方法等について教授する。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （保健医療学部看護学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	健康支援と社会保障制度	感染管理学	地域および病院・各種保健施設内において発生する感染症の概要と問題、その発生時の対処方法と予防策について教授する。また感染予防にかかわる看護の役割と責任及び組織管理について教授する。 具体的内容は、①微生物学的基礎を踏まえた感染症の概念　②特徴的な感染症発生時の対処方法と予防策　③看護師の感染防止に関する役割と方法　④感染防止に対する組織的活動の実際と管理について教授する。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎看護	基礎看護学総論	看護学の学問領域、看護学の学問対象について解説し、看護はどのような学問によって支えられているかを解説する。また 看護師の専門職としての職業的位置、専門職の定義・概念・看護の定義と独自性、さまざまな医療従事者とその役割の理解、さらに医療チームのありよう、その中での看護チームのありよう等について教授する。つづいて看護の歴史を概観し、時代の社会的ニードと看護の役割・看護教育の歴史を概観し、将来の看護・教育・役割・活動のありようを考えさせる。次に看護活動をどのようなステップで行うかについて看護活動過程とそのすすめ方、看護過程の各段階における機能(情報収集とアセスメント―看護診断―看護計画―看護実施―看護評価等)の遂行方法等について教授する。	
専門科目	基礎看護	基礎看護学援助論Ⅰ（日常生活にかかわる技術）	看護を学ぶ上で基本となる方法論や援助技術である人間を把握する技術、コミュニケーション技術、日常生活場面における看護技術について教授することを目標とする。 内容はコミュニュケーション技術、生活の援助技術、運動と休息の援助などについて、根拠に基づいて考え実践できるように、演習を通して教授する。また、生活場面において考えられる事故について考え、安全・安楽に援助を行えるように、その方法を教授する。	
専門科目	基礎看護	基礎看護学援助論Ⅱ（看護過程技術）	理論的な根拠に基づき、対象に関する情報を看護学的視点から分析し統合する方法及び計画的に看護を実施・評価することについて教授することを目標とする。 看護過程の基盤は問題解決技法であり、対象者にとって必要な援助を見極め、提供するための方法論である。当科目はヘンダーソンの14領域を使用し、事例を通して系統的・かつ個別的な看護を実践できるよう、具体的な看護の展開方法を習得する。	
専門科目	基礎看護	基礎看護学援助論Ⅲ（診療にかかわる技術）	理論的な根拠に基づき、診療に伴う意義を理解し、治療・検査・処置などに必要な基本的知識、援助技術の方法について教授することを目標とする。 内容は、治療を必要とする対象の感染防止対策、創傷処置、与薬、検査の援助方法、呼吸と循環を促す援助技術等について根拠に基づいて考え実践できるように、演習を通して教授する。また、診療場面における医療事故の事例や発生要因について考え、安全・安楽に援助を行えるように、その方法を教授する。	
専門科目	基礎看護	フィジカルアセスメント	人体の構造と機能の知識をもとに、対象の健康状態を身体的側面からアセスメントすることについて教授することを目標とする。 内容は、フィジカルアセスメントにおける基本的技術、バイタルサイン測定、標準的な身体計測方法、全身の系統的なフィジカルイグザミネーションの実際などについて、演習を通して教授する。また、フィジカルイグザミネーションで得られた情報を分析・解釈するための思考過程について教授する。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	基礎看護	看護管理･教育学概論	看護管理及び看護教育とは何かを明確にし、これらの現状や今後の課題について理解する。 (オムニバス方式/全8回) (全4回) 施設看護・地域看護における医療と看護の関係・連携のあり方と実態を知り、 看護管理の方法論と実際について教授する。 看護部門の役割と管理者に求められる能力と教育方法並びに看護管理者育成のための卒後教育と制度について教授する。 看護管理の評価方法並びに管理能力の評価方法等について教授する。 (全4回) 看護教育の歴史的変遷を教授し、わが国における看護教育制度の現状と課題について教授する。	オムニバス方式
専門科目	基礎看護	基礎看護学実習Ⅰ	診療および看護を受けている対象が療養している医療施設について理解すること、加えて入院患者との相互交渉過程の実習を通して、患者－看護師関係におけるコミュニケーションに関する実践能力が身につけられるよう実習を通して教授することを目標とする。 内容は、施設内の見学、環境整備の実施を通して、入院患者の日課や日常生活の実際について教授する。また、患者とのコミュニュケーションを通してプロセスレコードを作成し、相互交渉過程における学生の反応や患者の反応を、Hease＆Learsonの反応の読み方の基準を活用し客観的に読む方法を教授する。	
専門科目	基礎看護	基礎看護学実習Ⅱ	看護の対象である人間を把握するために、身体的・精神的・社会的側面から情報収集を行い、それぞれについて、どのような状態にあるのかをアセスメントできる能力が身につけられるよう、実習を通して教授することを目標とする。 内容は、日常生活場面、診療の結果と意味、疾病の捉え方、社会的側面などについての情報を収集し、その意味と結果由来について理解し看護に活用する方法を教授する。また、バイタルサインを安全かつ正しく測定し、その情報について患者の病態をアセスメントすることが出来るように、その方法を教授する。	
専門科目	領域別看護	成人看護学総論	成人の定義、成人各期の分類、成人の生活と健康の特徴、成人看護で活用する理論、成人期の保健の動向等について教授する。教育概要としては成人各期の特徴、成人の生活の特徴、成人の健康を脅かす要因、ストレスマネージメント、エンパワメント・エデュケーション、セルフマネージメント等の成人の健康を促すための理論等について教授する。	
専門科目	領域別看護	急性期成人臨床看護学	急性期・周手術期・危機状況等の定義、侵襲による生体反応,周手術期の患者のニード、周手術期の看護の目標・特徴、主要な症状時の対処方法・看護方法の実際・周手術期の看護管理等について教授する。特に、胃切除術・人工肛門造設術・心臓手術後の患者等の日常生活の自立とQOLの向上のためのセルフケアの推進、リハビリテーションを支援するための看護方法について教授する。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	領域別看護	回復期成人臨床看護学	回復期の定義・回復期の患者のニーズ・回復期の看護の目標・特徴、看護方法の実際・看護管理等について教授する。特に、脳血管障害・脊髄損傷・関節リウマチ・椎間板ヘルニア等の病態生理・症状の発現機序等を解説し、身体機能障害時の看護、患者の障害の受容と生活行動再獲得のために残存するリスクに配慮しながら社会復帰をめざし、積極的に日常生活動作の拡大をはかるための生活の再構築に向けた看護について教授する。	
専門科目	領域別看護	慢性期成人臨床看護学	慢性期の定義・慢性期の患者のニーズ、慢性期の看護の目標・特徴、看護方法の実際・看護管理等について教授する。特に、糖尿病・慢性腎不全・肝硬変・慢性閉塞性肺疾患等の病態生理・症状の発現機序等を解説し、慢性状態にある健康状態に対する受容と自己概念の再構築、生活の再建に向けて行動変容を促し自律して生活管理ができるようにセルフケアの推進・リハビリテーションを支援するための看護の方法について教授する。	
専門科目	領域別看護	終末期成人臨床看護学	終末期の定義・終末期の患者のニーズ 終末期の看護の目標・特徴、看護方法の実際・看護管理等について教授する。特に、終末期にある患者への告知の方法、終末期の身体・精神活動の特徴、症状マネージメント、精神的・社会的苦痛へのケア、スピリチュアルケア、グリーフケア、家族の全人的苦痛への看護、緩和ケア、ホスピスケアの概念等について教授する。	
専門科目	領域別看護	成人看護学演習	周手術期にある患者の情報把握の方法、麻酔の侵襲に伴う合併症の予防方法、術後疼痛時の看護、術後出血への対処方法、術後感染予防方法等の実際について教授する。また、周手術期にある患者事例を提示し、看護過程展開の演習をさせる。 回復期にある患者の情報把握の方法、回復期看護で活用する運動療法時のケア、松葉杖等運動補助器具使用と看護、日常生活動作に伴う看護技術、転倒予防方法等について教授する。また、回復期にある患者の事例を提示し、看護過程展開の演習をさせる。 慢性期にある患者の情報把握の方法、慢性期看護で活用する食餌療法・安静療法・薬物療法時のケア、自己概念の再構築と生活方法の再建時の看護方法の実際について事例を使って演習させる。また、慢性期にある患者の事例を提示し、看護過程展開の演習をさせる。	
専門科目	領域別看護	救急看護論	救急医療の現状と救急医療体制、救急看護の目標・特徴・役割、並びに救急患者の病態と治療および救急処置と看護について教授する。さらに、医療従事者が行う一次救命処置の演習、二次救命処置の実際、救急病態と治療・看護、救急患者および家族の心理的特徴と心のケア等について教授する。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	領域別看護	急性期成人看護学実習	手術を受ける患者を受け持ち、術前・術中・術後の身体・心理・社会的側面の情報を把握枠組みを活用して総合的に把握し、アセスメント・看護診断・看護計画・看護実施・看護評価等、一連の段階を踏まえて看護過程を体験させ、周手術期患者の看護の実際と、看護過程の各段階における看護機能の遂行方法の実際について教授する。	
専門科目	領域別看護	回復期成人看護学実習	脳血管障害等により運動機能障害・言語障害等の障害を持つ患者を受け持ち、患者が抱える問題を包括的に把握し、機能回復と残存機能の拡大をはかりADLの改善・向上(再獲得)をめざし、再発予防のための疾患・リスクに対する管理等、日常生活指導に必要とする看護について看護過程を体験させ、回復期の看護の実際と、看護過程の各段階における看護機能の遂行方法の実際ついて教授する。	
専門科目	領域別看護	慢性期成人看護学実習	慢性期疾患(主として糖尿病、心不全、高血圧症)に罹患している患者を受け持ち、身体、精神・心理、環境・社会的側面の情報を把握枠組みを活用して総合的に把握し、アセスメント・看護診断・看護計画・看護実施・看護評価等、一連の段階を踏まえて看護過程を体験させ、慢性期患者の看護の実際と、看護過程の各段階における看護機能の遂行方法の実際について教授する。	
専門科目	領域別看護	老年看護学総論	老年看護学の展開において、生活者としての高齢者を基盤として病気や障害をもちながらもその人らしく生活するための支援を視点とする。そのためには、理論を含めて老年期（高齢期）としての捉え方や健康観について学ぶ。次に、加齢としての身体的変化（薬理療法を含める）、老化として心理的・社会的・スピリッチュアルな変化ついて修得する。加えて、超高齢化社会としておきる人口動態の変化および高齢者疾病や死亡および少子高齢化との関係・家族関係および高齢者虐待について学ぶ。高齢者のケアリングについては、看護倫理やQOL。最後に高齢者医療と共に介護保険制度について学ぶ。	
専門科目	領域別看護	老年臨床看護学	進行速度の異なる加齢変化、慢性疾患や障害をあわせもつ高齢者に特有の健康障害、疾患、看護について教授する。また、人生の最終期にある高齢者の終末期の看護と家族支援について教授する。 具体的内容は、高齢者の病気の特徴、入院・検査・薬物療法を受ける際の身体侵襲と看護、手術を受ける高齢者の看護、高齢者に多い循環器疾患・呼吸器疾患・パーキンソン病・骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折・白内障・前立腺肥大症・認知症の看護、高齢者の終末期看護と家族のケアである。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	領域別看護	老年看護学演習	加齢に伴う機能の変化が高齢者の生活にどのように影響するのかを理解し、高齢者のQOLの向上や自立に視点をおいた高齢者に特有な看護技術について教授する。 具体的内容は、①高齢者の特徴と情報の収集と把握枠組み、②高齢者のフィジカルアセスメント、③高齢者とのコミュニケーション技術、④高齢者の食生活、清潔・口腔ケア・身だしなみを整える技術、⑤尿失禁と排泄の自立、⑥転倒・転落を予防するための技術、⑦廃用症候群、褥瘡を予防するための技術、⑧大腿骨頸部骨折患者の看護過程の展開等である。	
専門科目	領域別看護	老年看護学実習Ⅰ	介護保険施設入所者および家族の特徴や背景等を理解し、生活障害を持ちながらもその人らしく生活できるよう援助するための看護の実践能力を養う。 具体的内容は、高齢者の生活史を知り、その施設生活について理解する。加えて、生活障害についての受け止め方や家族への思いについて理解する。さらに、施設生活における生活機能の向上のための援助を学び、 医療・保健・福祉の各専門職をチームメンバーとしての介護士・看護師の役割や機能について理解する。	
専門科目	領域別看護	老年看護学実習Ⅱ	老年期における複数の慢性疾患を抱えながら、その健康障害への自己管理と自立について学ぶ。加えて、生活者としての豊かに生きるための援助方法について学ぶ。 具体的内容は、疾病の理解、健康障害の程度、もてる力を活かした援助、余暇活動、二次的合併症の予防、発達課題、高齢者の尊厳と倫理的配慮、家族への支援、社会資源の活用等である。	
専門科目	領域別看護	小児看護学総論	子どもが、家族や社会との関わりのなかで身体的・精神的・社会的な存在として成長・発達すること、乳児期から思春期に至る各発達段階では異なった特徴と発達上の課題を持っていること、そして、家族もまた子どもの成長とともに変化していることを教授する。そして、歴史的な子ども観や育児観を踏まえたうえで、発達理論を概観した子どもの成長・発達の様相と子どもの健やかな育ちを支援する看護の基本を教授する。 具体的内容は、子どもの権利、小児医療・小児看護学の変遷、小児看護の特徴と理念、小児保健の動向、子どもの成長・発達、子どもの栄養、乳児期から思春期に至る子どもの成長・発達と養育及び看護、家族の特徴、子どもの生活環境や発達に関連した健康問題や課題などである。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	領域別看護	小児臨床看護学	子どもの健康障害が成長発達やその後の人間形成にも影響を及ぼすこと、また家族にも影響することから、健康状態、発達状況に応じた子どもと家族のセルフケア能力の育成や現状を悪化させないためのリハビリテーション看護の方法について教授する。 具体的内容は、疾病・障害を持つ子どもと家族の看護、子どもの疾病の経過と看護、生活制限のある子どもと家族の看護、疾病の症状を示す子どもへの看護、入院・外来・在宅における看護、NIC・GCUの看護、災害時の看護、子どもの虐待とその看護である。	
専門科目	領域別看護	小児看護学演習	子どもの成長発達に関する基礎知識を基に、子どもの発達や健康の回復・保持増進に向けた支援技術について教授する。 具体的内容は、子どもとその家族への関わり方とコミュニケーション、子どもの特徴や全体像の把握方法･アセスメントに必要な技術、検査・処置を受ける小児の看護技術、小児の心肺蘇生法、小児期に多い事故や外傷とその対処方法や事故防止のための育児指導である。	
専門科目	領域別看護	小児看護学実習	健康な子どもおよび治療を必要とする子どもとその家族の成長発達や健康状態、生活状況、セルフケア能力の理解、それに応じた看護実践の基礎的能力と態度を育成できるよう教授する。子どもや家族との関わりにおいては、子どもと家族の気持ちの尊重、倫理的配慮、セルフケア能力に合わせた自立支援、現状を悪化させないためのリハビリテーション看護の実際について教授する。また、子どもと家族を取り巻く他領域の専門家への働きかけや調整の重要さが理解でき、医療チームにおける看護の役割について教授する。 具体的内容は保育所、小児病棟と小児科外来における子どもとその家族への日常生活援助、環境調整、健康増進と疾病の回復への援助、成長発達の促進などである。	
専門科目	領域別看護	母性看護学総論	性と生殖（種族保存）の意義を理解し、女性の健康についてライフサイクル全体の中で、女性の一生を通じて健康の保持・増進を担う看護の役割や機能について教授する。母性看護学領域で使用する主要理論の解説、また、母性看護学の領域の対象把握の枠組み、保健の動向と特徴、ライフサイクルにおける各期の特徴と健康課題、母性看護の現状と動向と課題等について理解することを目標とする。 具体的内容は、母子を取り巻く日本の母子保健統計の動向、母子の健康増進を図る組織と法律、日本における出産の歴史的変遷、日本における少子化の現状と取り組み、母子を取り巻く環境、母子の看護活動を行う場や職種、その他、母子関係と家族発達に関する理論とモデルについて教授する。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	領域別看護	母性臨床看護学	周産期における母性と胎児・新生児の身体的、心理・社会的特徴とその看護に加え、家族の心理・社会的変化に対する看護を教授する。また、母性看護学の対象の妊産褥婦の定義・概念、母性看護学の妊産褥婦の健康問題と病理・症状の発現機序、主な看護問題に対する予防方法、主要な健康問題の検査・治療時の看護、退院と生活指導の特徴について教授する。 具体的内容は、妊婦とは妊娠成立の仕組みと母体の変化、胎児の成長発達、分娩開始と経過、分娩の母児に及ぼす影響、産褥期の身体的・心理的変化、新生児の生理的特徴と適応およびそれらの病態について、また、妊娠各期における異常と看護についても教授する。さらに、妊産褥婦を取り巻く家族への心理、支援について教授する。	
専門科目	領域別看護	母性看護学演習	母性看護学演習の目標は、母性看護学で学んだ知識を活用して、母子の健康をアセスメントし看護援助の計画・立案が行え、母性看護学の対象と看護援助を踏まえた看護技術を習得し、母性看護学実習を行う上で必要な看護実践能力を養うことを目標とする。　具体的内容は、妊産褥婦・新生児の情報の収集と特徴について理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児期の事例、帝王切開術を受ける産婦の看護過程の展開を演習する。また、妊娠・分娩・産褥期における主要な看護技術を習得する。妊娠期における主要な技術では子宮底と腹囲測定方法、レオポルド触診方法、分娩期では分娩機転、胎盤剥離徴候、胎盤娩出方法、産褥期では分娩後の子宮底の測定方法、新生児期ではバイタルサイン測定方法、抱き方、沐浴の方法などについて演習を行う。	
専門科目	領域別看護	母性看護学実習	母性看護学実習の目標は、妊娠各期と新生児期の必要な看護援助の方法を理解し実践できる能力を養う。 具体的内容は、褥婦と新生児を2例を受け持ち看護過程の展開実習（問題解決方法）を行う。分娩立会いを行い産婦に援助を実践する、帝王切開の見学実習、外来実習では妊婦に対する援助を実践する。新生児の沐浴を実施する。実習計画として、実習オリエンテーションの実施、事前学習として知識の確認、技術の確認、課題学習、実習記録の記載方法の指導を行う。実習施設は産婦人科診療所施設、実習形態は1グループ学生数は5～6名である。受け持ち患者は褥婦と新生児を受け持ち看護師とともに援助を行う。学生の指導体制は、担当教員は臨地実習指導者と連携・調整にあたる。また、必要に応じ産婦・褥婦・新生児の看護を行う。	
専門科目	領域別看護	精神保健看護学総論	精神医療の歴史的背景および精神保健医療福祉制度の動向、看護職に求められる役割と機能、精神科看護の基礎となる人間関係論を教授する。精神看護学は精神科看護学と精神保健学を指している。多様な精神病について、メンタルヘルスの視点から理解し、人間のライフステージと心身の発達から、パーソナリティの成熟と適応について教授する。また、精神科領域における保健医療福祉に関する歴史・法律・制度の変遷・課題を体系的に教授し、精神科疾患を抱えながら生活している人々の人権や権利擁護について教授する。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	領域別看護	精神臨床看護学	精神看護を展開する上で必要とされる精神医学の基本的な概念・状態像を理解し、精神医療の歴史的背景を踏まえ、治療と看護場面のアプローチ、ケアの進め方、精神保健福祉サービスの提供について教授する。人の各ライフステージにおける発達課題と心の危機状況を理解し、精神保健看護のあり方や精神障害を持つ患者の看護を教授する。特に統合失調症やうつ病患者の事例を通し、リハビリテーションと社会復帰活動、精神障がい者の自立と社会参加などを教授する。	
専門科目	領域別看護	精神看護学演習	精神看護における基本的援助技術（自己の治療的活用法）及び看護場面における介入方法について教授する。精神疾患を有する人、精神障がいを持つ人の状態を理解し、多角的にアセスメントを行い、ケアプランにつながる能力を教授する。特に統合失調症やうつ病患者の事例を基に、人間関係論に基づいたプロセスレコードを作成し、患者-学生関係を振り返り、学生のコミュニケーション技術の向上や自己洞察を図ることができるように教授する。リハビリテーションや作業療法、社会資源の活用など社会復帰活動、精神障がい者の自律などを看護過程の展開をとおして教授する。	
専門科目	領域別看護	精神看護学実習	精神障がいを持つ対象とコミュニケーションを持ち、相互交渉を行い、プロセスレコードを作成することにより、心の不健康が日常に及ぼす影響や、対象との人間関係を円滑にできない場合などの精神看護の役割を知り、自己洞察し自己の変容ができるように実習することを目的とする。また、精神保健としてライフサイクルにあったその時々の心の発達について広く捉え、心の健康、不健康を理解できるように実習する。また、地域精神看護における対象の自立支援や社会復帰への関わりや連携等援助技術や精神科の特徴的な治療技術について実習する。	
専門科目	統合看護	広域看護学総論	看護の場は施設内にとどまらず広域で展開されている。広域で看護が必要とされる社会的背景を理解し、看護を展開する上で必要な基礎知識を教授することを目的とする。 在宅看護は高齢多死社会、人口減少社会を迎えるわが国において、今後ますますニーズが高くなる。国民の誰もが、人生の終焉まで住み慣れた場所で自分らしく生ききれるような看護支援を行うことができるよう、本科目では在宅看護の理解を促進することに本科目の特徴がある。 具体的内容は広域で実践される看護の概念・特徴、広域で実践される看護の種類と内容、看護の継続性、広域で展開される看護の理解を促す理論、倫理的課題等である。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	統合看護	在宅看護学	療養者と家族をケアの一単位として捉え支援する視点から、既存の学習を統合、分析して支援に結びつける一連の看護過程を教授することを目的とする。具体的内容は以下の通りである。 具体的内容は、①高齢者の療養生活を支える社会制度と看護支援、②障害児・者の療養生活を支える社会制度と看護支援、③難病患者の療養生活を支える社会制度と看護支援、④難病療養者と家族の事例に基づくケアマネジメントとケアプラン、⑤在宅療養者と家族を理解する情報収集と把握枠組み、⑥在宅療養者と家族を支援するリハビリテーション看護、⑦在宅療養者と家族の事例に基づく看護過程の展開である。	
専門科目	統合看護	在宅看護学演習	在宅療養の主体である利用者、家族が住みなれた場所で、日常生活の中に安心安全な療養生活を織り交ぜながらおくることができるよう支援する看護技術を修得させる。 内容は、継続看護（退院調整・支援）、訪問時のマナー、在宅リスクマネジメント、家族の潜在能力を引き出す技術、療養生活に伴う日常生活の援助技術、医療処置に伴う看護技術、難病療養者・ターミナルケアに関する看護技術である。	
専門科目	統合看護	家族看護論	家族は家族成員が互いに関わり合って生活しており、健康上および生活上の課題について、家族そのものを看護の対象として支援しなければ解決できなくなってきており、家族看護のニーズは高まっている。そのため、看護における家族支援の基礎的知識を教授することを目的とする。 具体的内容は家族看護の定義と変遷、家族をめぐる社会的状況、家族看護の理論、家族看護過程、家族看護実践評価、家族看護を実践する看護者が陥りやすい傾向等である。	
専門科目	統合看護	在宅看護学実習	保健医療福祉制度の活用と多職種連携を行いながら対象に応じた看護実践の基礎的能力と態度を養う。 具体的内容は、内容を地域における一次予防、二次予防の実際、利用者と家族を一単位とした看護支援、連携・協働、退院調整と支援の実際、利用者と家族の望む生活を支える支援等である。	
専門科目	統合看護	リハビリテーション看護論	各発達段階や病期（ステージ）、疾病や障害をもった対象者（児）に対し、全人間的復権を目指したリハビリテーション看護を教授する。 具体的内容は、リハビリテーションの意義・目的・方法・リハビリテーション意欲を高める方法、セルフケア能力に着目したリハビリテーション看護、リハビリテーション過程の促進を目指した多職種間チームによるアプローチ、個人の生き方を尊重し、人間らしく生きる権利の回復をはかる支援、身体的・心理的・社会的能力（もてる力）を最大限に活用して自立した生活・豊かな生活の援助方法等である。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	統合看護	国際看護学	国際的な視野をもち活動することができるよう、国際看護学の意義、政治･経済･教育・文化･宗教が異なる多様な国々の人々の暮らしと、その人々の健康問題について教授する。 具体的内容は国際協力と開発、グローバリゼーションと健康、国際看護学の概念、異文化看護と理論、国際看護の必要性世界の人々の健康と保健医療の現状への対策、保健医療対策における看護職の役割などである。	
専門科目	統合看護	ヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントは、対象となる人の健康状態について情報収集し査定するという目的を持つ。このため事例検討やシミュレーション学習等の形態をとり、対象になる人に適した看護を行うことができるよう既習の知識および技術を駆使し科学的思考過程を構築し、これに基づく看護実践ができるよう展開する。さらに、対象となる人の状況に則した看護技術においても安全に提供できるよう、各看護領域における実習の前段階の学習として位置づける。	
専門科目	統合看護	看護研究方法論	看護の資質の向上発展には、看護活動の資質を高める方法論・方法の追究・生産が不可欠である。看護の専門職は就業活動中は終生、この目的のために看護実践を通して研究行為（研究）が課せられていることを教授する。その目的遂行のために研究活動の基礎となる研究目的と研究の意義から論文の書き方までの概要を教授する。 (オムニバス方式/全15回) 具体的内容は、研究目的と研究の意義、看護研究における課題の視点、研究計画書の書き方、研究デザインの設定、研究方法、倫理的配慮、研究フイルドの見つけ方、データ収集法、データの統計処理方法、結果・考察・結論・文献の書き方、文献検索方法、文献の読み方、量的記述的研究論文と仮説検証型研究論文の解説方法、論文発表の準備等である。 (全5回)研究及び研究活動の基礎について教授する。 (全10回)看護における研究の方法と具体的な看護研究活動について教授する。	オムニバス方式
専門科目	統合看護	看護研究	看護における新たな知識・知見を生み出す「看護研究」は、看護の質の向上に欠かすことができない。看護職者は、研究成果と看護実践を関連付ける能力が求められる。このため看護研究への関心と理解を深め、自らが探求していく態度や研究に必要な方法について基本的知識を身につけることを目的とする。 具体的内容として、学生が臨地実習やこれまでの学習等から看護に関する研究テーマを選定し、これを解決するための看護研究活動として看護研究の目的と意義を明らかにし、文献検索および文献検討の実際、研究計画書を作成に至るまでの一連の基本的な研究活動を体験する。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	統合看護	統合実習	臨床現場における看護を統合的に理解し、看護管理、複数患者の看護、夜間の看護の実際について教授する。 具体的内容は、病院組織における看護管理の実際、認定看護師の役割と機能、病棟管理者の役割と機能、リーダー・メンバーの役割と機能、複数患者への看護優先度の判断と実際、夜間の（就眠前）患者の状況と看護援助、医療の安全対策の実際などである。	
専門科目	統合看護	生活習慣病予防論	健康の回復・維持・増進や自己管理のための基礎的な知識、生活習慣病を改善・予防するための運動や食事など、科学的な根拠に基づいた対策についての理解と行動変容につながる介入のあり方、看護の役割について教授する。	
専門科目	統合看護	思春期健康論	思春期健康論の目標は、思春期の定義や身体的・心理的特徴、健康問題および保健対策について教授し、思春期の健康教育のあり方を理解し、健康問題に関わる者として、健康教育を実践できる能力を養うことを目標とする。 具体的内容は、思春期の定義、身体的特徴と心理的特徴、思春期の保健対策と健康課題、健康問題として月経問題、栄養問題、性感染症、十代の妊娠・出産・人工妊娠中絶等である。また、思春期の健康教育の演習を行い模擬授業を実践する。思春期の健康管理が成人期や老年期に影響を与え一生のうちでも思春期は重要な時期である事について教授する。	
専門科目	統合看護	認知症看護援助論	「認知症を知る」ことと「認知症高齢者を理解する」ことを通して、老年期における認知症の発現過程と認知症高齢者の看護について教授する。 具体的内容は、認知症の予防、生活管理、認知症高齢者の対応、介護負担、社会資源を活用した認知症看護・介護者支援などである。また、認知症高齢者のQOLの向上にむけ、日常生活・社会生活に適応するための生活環境のととのえ方やリスクマネジメントについて理解を深める。	
専門科目	統合看護	リエゾン看護論	リエゾン精神医学・看護についての必要性、目標、病院内や病院外施設との連携について教授する。心の健康と発達段階について理解し、健康な心の意義、重要性を考え、地域精神保健活動を理解できるように教授する。リエゾン精神医学・看護が包括的医療の推進のために重要な役割を果たすことが理解できるように、対象者の特徴、身体疾患患者の心理的ケア、ストレスケア、セルフケア、コンサルテーションについて教授する。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	統合看護	災害看護学	災害医療の概念、災害が人間生活におよぼす影響について理解を深め、災害看護の基本的な心構えや姿勢について教授する。また、災害医療システムや災害医療サイクルについて理解し、災害看護の展開に必要な判断力や技術を教授する。 (オムニバス方式全8回) (5回) 災害の定義と分類および特性、災害時の人間の行動、災害の多面性と情報の大切さ、災害医療、救急医療体制、法律、国際支援システム、災害サイクルと各期に特徴的な健康問題と回復過程および医療・看護、トリアージの概念・方法、ストレス反応、被災者の生活の理解、他職種との連携、ボランテイア活動などである。 (3回) 災害看護を必要とする場での看護活動より、災害状況に応じた活動現場における看護より、多職種との連携、看護職をはじめとする各専門職の役割や対応等について教授する。	オムニバス方式
専門科目	統合看護	組織とリーダーシップ学	経営学の諸理論やツールを用い、看護組織に関連するさまざまな理論と概念を教授する。また、組織構造・組織開発・組織変革・組織文化・組織倫理などの視点から、多角的に分析する視点を養い、分析結果をどのように経営戦略に活かしていくかを教授する。さらに、組織の中で影響を持つリーダーのリーダー像とリーダーシップについて教授する。 具体的内容は、組織とは、組織の構造、組織分析（SWOT分析等）、病院における看護組織、人材マネジメント、動機づけ理論、リーダーシップ理論等である。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
養護科目	学校保健	児童生徒の心身の健康状態を理解し健康の保持増進を図るために、学校生活や学習活動に必要な健康や安全について、その問題や予防等の対策について学ぶ。また、学校保健の実践が児童生徒の発達に対して果たす役割を理解する。さらに、養護教諭の役割、専門性、関連する教職員の役割など具体的な活動等について学習する。	
養護科目	養護概説	「養護」の定義･概念、養護教諭の専門性、学校における保健室の役割機能等を理解し、養護教諭としての活動についてその基礎を学ぶ。主な内容として、学校保健安全に関する法律の理解、保健室の機能や経営に関する理解、学校保健活動などについて学ぶ。また昨今健康上の問題とされているアレルギー性疾患をもつ児童・生徒への健康管理や指導、感染症罹患への予防対策について学ぶ。さらに、増加している心の健康について、問題への対応や養護教諭や保健室の役割、学校の教員やカウンセラーなどの他職種との連携した対応について学ぶ。	
養護科目	健康相談活動の理論及び方法	わが国において社会が抱える多くの問題と、教育の現場において行なわれている健康相談活動には強い関連があるといわれている。これらの現状について理解すると共に、対象となる児童・生徒が成長発達段階の途上にあることからすると、多方面の専門分野の専門家と連携をとりながら適切に対応していく必要がある。このために必要な健康相談活動の基本、学校教育との関連、健康相談活動を行なうに必要な理論や専門的な技法について理解する。また具体的な他職種との連携を密にした活動の方法について学ぶ。	
養護科目	食品学	健康に生きていくために必要な栄養成分を含む食品についての知識、食品と人間の関わりについて学ぶ。主な内として、食品に関する栄養学的特性、食品成分、食品の分類、保存、貯蔵に関する知識など、食品全般に関する知識を深める。	
養護科目	教職概論	教育および教育の現場に携わる教師について、その歴史や役割、職務について学ぶ。現代の教師は「学び続ける教師像」として生涯学ぶ存在としてのあり方が提起されている。教師の仕事として、授業や生徒指導、学級経営、部活動指導、保護者対応など、多くの役割が存在するが、基本的には教職への熱意と意欲に満ちた存在として、児童･生徒への日々の教育実践に教師愛をもって「アクティブ・ラーニング」を行うことが求められている。また、今日の学校をめぐる様々な課題には、「チーム学校」として教師が協働して取り組むことも強く求められている。以上の教師をめぐる様々な課題について学ぶとともに、具体的な実践事例をもとに教師の在り方について考える。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
養護科目	教育原理	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶ。具体的には、日本における教育の理念および歴史･思想について学ぶとともに、現代における教育のあり方や役割・使命について学ぶ。現代の学校が抱える諸問題、たとえば、いじめ・不登校・高校中退・教師の体罰・校則と管理・保護者の対応などの諸問題について、具体的な事例を通して学び、これからの教育のあり方について考える。	
養護科目	学校経営論	将来どのような教師になりたいのか、あるいはなるべきなのかを考える前提として、まず、教育や学校組織を成り立たせている歴史や制度的基盤があることを確認する。そして、そうした基盤が現在の学校が存在する意味や、教師個々のライフワーク、かれらが抱きがちな価値観や信念について考察できるよう意図している。最終的には、学校経営という営みを、教師という視点のみならず、子どもの幸せを生み出せる「学校づくり」という観点から捉え、考察したいと考えている。	
養護科目	教育課程論	教育課程はカリキュラムともいわれ、「学びの履歴」を意味する。教育課程の意義や歴史的変遷を理解し、学校教育の中で、児童生徒にいつの時期にどのような目的や方法で何を学ばせるのかといった教育計画や、事後の評価など教育課程に関する基本的な知識について理解する。具体的には、教育課程の意義や歴史、学習指導要領の変遷、日本の現代における教育課程および関連する課題や行なわれてきた教育改革等について、具体的な事例を通して理解を深める。	
養護科目	特別活動論	学校教育は、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の4つの領域で行われている。その中で、特別活動は学級活動やホームルーム、生徒会、学校行事、部活動など、児童･生徒にとっては非常に重要な内容を含んでいる。それらの活動について、具体的な事例を通して、その意義と課題や問題点などを考察し、特別活動のあり方について考える。	
養護科目	道徳教育指導論	道徳教育に関する理論的な問題について、哲学や心理学、教育学等における議論をもとに考察する。また、子どもが実際に教育現場でどのように道徳を学んでいるか、授業映像や講師が教育実践の中で出会った子どものことを事例として理解を深める。明確な答えを設定できない問題領域であるため、講師は以上の事柄について考えるための題材の提供、及び問いの提起のみを行う。毎回の授業の中でグループワークを設けるので、学生間で積極的に考えを交わし、自分なりに思考を深めることを大切にしてもらいたい。授業中の発言、および感想シートを通した講師への質問や、学生自身の意見の表明については大いに歓迎する。	
養護科目	教育方法論	学校教育における授業をいかに行うのか、授業の中で児童・生徒は何を学んでいるのか、教師は授業で何を教えるべきなのか等について、具体的な授業の事例をもと考える。「教育実践」や「授業」とはどのようなことか等、これらの意義、歴史的変遷を理解し、児童・生徒が意欲的・主体的に取り組むことのできる授業を実践するために必要な教育の方法と技術について学習する。特に現代はコンピューターなどの情報機器が発達しているので、これらの情報機器の有効な活用法についても学ぶ。	

様式第２号（その３）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（保健医療学部看護学科）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
養護科目	生徒指導論	現代における学校教育の現場で起こっている諸問題、特にいじめ・不登校・非行･問題行動などについて、具体的な事例を通して深く理解し、児童・生徒への指導に必要な基本的な知識や理論、専門的な方法について学ぶ。また生徒指導の意義を理解し、生徒指導の実際は個々の発達過程や生活状況など学校教育での学習以外の領域に及ぶこともあるため、個々の児童・生徒を全人的に理解し、健全な生き方ができるよう導く姿勢が重要であることを理解する。	
養護科目	教育相談	児童・生徒に深刻な問題として関わる事象が多発している昨今において、 教育相談の意義、教育相談を必要とする状況、基本的な知識や考え方等について理解する。また、児童･生徒を取り巻く社会問題等、時代と共に変化する状況の中で教育相談のもつ役割がどのように変化してきたかを理解する。さらに、教師として児童・生徒が抱えている問題に適切に対応できるための専門的な知識やカウンセリング等の理論や方法･技術を学び、個々の児童・生徒への教育支援としての教育相談について理解する。	
養護科目	養護実習	これまでに学んだ養護教諭養成課程での学習内容、さらに養護教諭に必要とする専門的知識や技術等の学習内容を駆使し、学校での実務の体験を通して学ぶ。実習を通して、児童・生徒の実態や課題を把握し、専門的な立場からの対応、学習への支援についての活動を理解する。具体的には、これらの学習活動を通し、学校保健に関する具体的計画を立案・実践することの実際を学ぶ。また、学校における教育活動を理解し、養護教諭として教育現場の一員としての責任、さらには専門職として将来に向けた自らの課題を考える。	
養護科目	教職実践演習(養護教諭)	「教職実践演習」は国が定めた新たな必修科目で、教師になる学生が4年生の時点で学部4年間の学びの集大成として、教師としての基本的な知識や理解、教職の専門性などについて省察する科目である。従って、養護教諭を目指す学生は、教職科目の授業及び養護の専門科目や養護実習を体験して得た学習内容、またこれまで学んだ知識や理論を駆使し統合し「さらに学びなおす」ことにより、教育職-とりわけ養護教諭としての自覚や責任について考える。また、教育現場における養護教諭としての学校保健の重要性を認識し、さらに卒業後養護教諭になるための自らの課題を深く理解する。	